

12月のスケジュール

月	火	水	木	金	土	日
29	30	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31 大晦日	1 元旦	2

保健師より

朝夕めっきり冷え込んで、寒暖の差が激しくなってきました。お部屋の空気も乾燥してきて湿度が30%をきることもしばしば…。冬の乾燥は考えている以上に子どもの体から水分を奪っていきます。冬でも隠れ脱水に要注意です。お部屋では積極的に加湿器を使用したり、夏と同じぐらい水分補給を気にかけています。また空気の入替えも重要です。外の方が20%ほど湿度が高いため2～3時間に一度の換気でも乾燥対策には効果的です。また冬の感染症に備え、手洗いやうがいなどで、しっかり予防していき、子どもたちと一緒に元気で楽しい年の瀬を迎えたいと思います。

○ 11月の感染症：なし

○ 0歳児乳児健診
つぼみ組の皆さんは、当日はなるべくお休みされ
ないようお願いいたします。

December 2021

2021. 12.1 発行

small alley post

東香会

保育理念 『いきいき』

合言葉 『すべて子ども中心』

基本保育方針

『私たちは、今ここで「こどもたちのたからもの」を大切にします』

『地域で安心して子育てができるように！』

『子どもの成長、発達に寄与する人はすべて保育者』

12月の保育主題

『年の暮れ 遠くの方で明日の音』

年の暮れ、寒さが身を引き締める

「雨と水って違うもの？」

こども美術館へのご来館ありがとうございました。今年は例年に比べて様々な出会いがありました。お店、ホテル、美術館、それに関わる人々…。本物に触れる時の子どもたちの表情はいつもに増して真剣で、何かを吸収しようとする勢いを感じられます。“もっとこうしたい！”という遊びの中で生まれた気持ちがそうさせるのでしょうか。一方的に教えられる学びではなく、やりたいことに向かって探求する時の子どもたちの姿は力強いですね。

子どもたちのパワーを感じる一方で、まだまだ子どもたちの表現の深さに私たち大人が追いついていないなとも反省しました。大人の固定概念から抜け出せていないのでは…と。子どもたちが最終的に常識や知識に導かれてしまっているのではないか。子どもたちの作品とスケッチを読みながら、保育者たちの課題が鮮明に見えてきました。

スケッチの中で興味深い子ども同士のやりとりがありました。幼児クラスのHくんとAくんの「水の実験」の2人の言葉からは、固定概念がないからこそ生まれた発想がみえます。雨を集めて始まった水の実験、その後「雨と水を混ぜたらどうなるのか」という疑問が生まれました。雨と水は違う物質で、混ぜたら面白いことが起きるかもしれない、と期待を寄せているのがわかりました。

雨は私たち人間が操作できるものではなく空から降ってくるもの、水は水道の蛇口をひねったら出てくるものです。確かに雨と水は違う。雨の大半は水でそこに不純物が入ったものとのことですが、そんなことを子どもたちと理解したいではありません。私はそこでこの子達の「雨のイメージ」と「水のイメージ」を見てみたいと思いました。どんなことを想像して混ぜてみたいと思ったのか、色で表現するのか、形で表現するのか、そこを探ってみたらどうなっていたら。子どもたちが日頃ボソッと話す言葉には面白い遊びや学びとなることがたくさん詰まっています。それが正解、不正解ではない想像の世界はとても興味深いです。

子どもたちが出す疑問や問いはいつも新鮮で、そこからまた“そういえばどうだっけ？”と自分の問いにもなるのです。当たり前になってしまったことをもう一度考えなおすきっかけになったり、それに関連づいていた自分の習慣を見直すきっかけになったり、small alleyの子どもたちから様々なことを学ばせてもらっています。もしこの世界が大人だけになったら、つまらない日々を送ることになるのだろうか、とふと思うのでした。

渋谷東しげんの国こども園 園長
名古屋 彩佳

保育エピソード

0歳と2歳のお子さんを連れのお母さんが子育てひろばに遊びにきているところに、MさんとKさんが「お邪魔します！」と遊びの素材を取りにきた。2人が素材を選んでいると、2人のもとに絵本を持って近寄る2歳の女の子。「読んで欲しいの？いいよ、一緒に読もう」とその場に座り、絵本を読んであげるKさん。Mさんは「赤ちゃん、かわいいね～」と0歳の子に微笑みかける。そんな様子を「癒されますね」ととても嬉しそうに見守っていたお母さんは「そうそう、Sさん。この前のダーニング（ひろばのイベント）の続きしたいんだけど、針と糸借ります？」と針仕事を始めた。そこに小学生のお姉ちゃんも来て宿題を始めると、もう子育て広場というより誰かのお家に遊びに来たようなある日のB U T T E Rの風景。でも、そんな風景がとても温かくて気持ちが良く、こんな風にさまざまな年齢の人たちが集まる場になってほしいと思いました。

様々な素材のマテリアルも、新しい棚が出来上がり少しずつ整理されています。B U T T E Rが今後どのように人が混じり合っていくのか、とても楽しみです。

今月のsmall alley play ground ピックアップスポット

ギャラリーSpace WAIZE

住所：東京都渋谷区渋谷 2-8-4 佐野ビル 2F



青山通り、金王坂下の歩道橋を渡り、CROSS TOWERを抜け、裏路地に入る道のりで徐々に高まる期待感と緊張感……。その先に、どんな「出会い」が待っているのだろうか？ 季節の風に吹かれ、心は踊り導かれる。お抹茶ジェラートの「ななや」さんなど魅力的なお店が連なる通りを少し歩くと1階にお寿司屋さん、2階に障子戸のある和空間ギャラリー「Space WAIZE」がある。訪ねたその日は企画展初日で、賑わいを見せていた。岐阜の女流陶芸家：赤尾ふさこさんの作品は、一見自然物と思わせるようなフォルムや深い織部の緑、鮮やかな粉引の白が特徴で、その静かで力強い作品に徐々に引き込まれた。感染症の猛威が作品の発表を遅らせ、常連のお客様と「ようやく会えたわ!」と嬉しそうに言葉を交わす赤尾さん。約25年この場所でギャラリーを営むオーナーの日比さんは「作り手が作品に込めた想いを使い手に伝える橋渡しが出来たら」と話す。多くの新たな文化が交差する渋谷で、変わらず「手仕事の温もり」を発信し続ける「Space WAIZE」は、私の“ほっ”と出来る大好きな場所です。